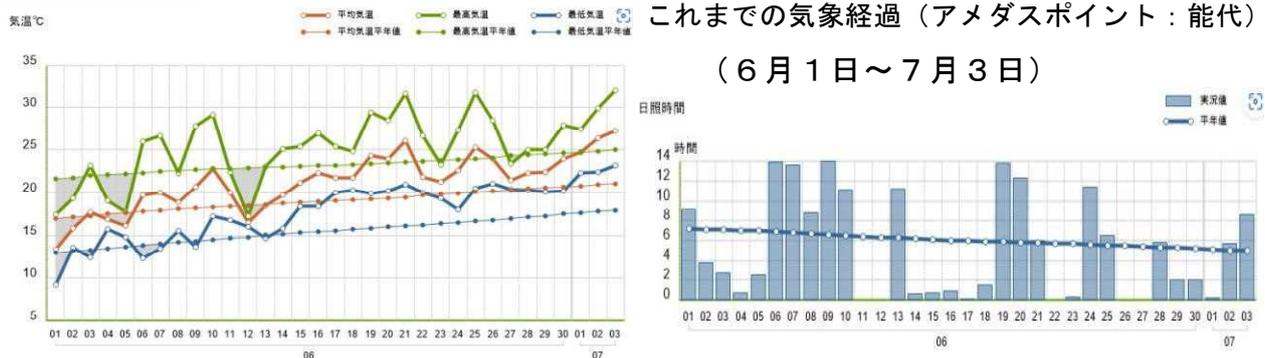


## 草丈長く、茎数少ない

～確保した茎を充実させる水管理と診断に基づいた適切な追肥を！～

### 1 気象経過と生育状況

#### 【気象経過】



6月中旬から平均気温、最高気温、最低気温ともに平年より高い日が続いています。6月1日からの日照時間は平年より30時間少なく(平年比85%)推移しています。

#### 【生育状況】

#### ○定点調査結果 (7月5日)

7月4日現在の管内水稻定点調査ほ(9地点、品種:あきたこまちR)の生育は平年に比べ、草丈が長く、茎数が少なく、葉数、葉色は並みとなっています。

	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉数(葉)	葉色
本年	57.3	444	10.1	43.2
平年	52.4	505	10.2	44.3
前年	54.2	464	10.6	42.8
平年比較	109%	88%	-0.1	98%
前年比較	106%	96%	-0.5	101%

葉数は、平年差-0.1葉で、遅れていた葉数展開が平年並みま

※平年は過去10カ年の平均値。葉色はSPAD-502Cで測定

で進みました。草丈は、6月中旬からの高温と日照不足の影響で長くなりました。茎数は、葉数展開の進展に伴って前回調査よりも平年値に近づいたものの、平年よりも少なくなりました。確保した茎を充実させる水管理を行いましょう。

### 2 生育に応じた水管理

○幼穂形成期(幼穂長2mm期)を、発育モデルを用いて予測すると、あきたこまちR(中苗)を5月20日に田植えした場合、平年値より4日早い7月11日と見込まれます。

#### ○幼穂形成期の予測(アメダス能代)

田植日	本年 (平年値)
5月10日	7月6日 (7月10日)
5月15日	7月8日 (7月13日)
5月20日	7月11日 (7月15日)
5月25日	7月14日 (7月18日)

○幼穂形成期に土壤水分が不足すると1穂着粒数が減少するため、**中干しは幼穂形成期までに終了します**。中干し後は稲体の活力維持のため間断かん水を基本とします。

※中苗。7月4日以降は平年値を使用。

○減数分裂期から穂ばらみ期にかけて、冷害の危険性がある低温(日平均気温20℃以下、最低気温17℃以下)が予想される場合は、予め前歴深水処理(幼穂形成期頃から10日間程度、25℃程度の水を10cm位に保つ)で、低温対策を実施します。

◆カドミウム含有米の発生が懸念される地域で「あきたこまちR」以外の品種を作付けしている場合は、間断かん水をせずに**出穂期前後3週間の計6週間（平年で7月15日頃～8月25日頃）は湛水管理を厳守してカドミウム吸収を抑制**してください。生育が早まっているほ場も見られるため、ほ場の生育状況を確認して、適期に水管理を行うようにしましょう。

### 3 あきたこまちの栄養診断

#### 【栄養診断による追肥の判断】

- 幼穂形成期の極端な葉色低下は、1穂着粒数の減少・有効茎歩合の低下を招きます。ほ場ごとに幼穂の生育状況と生育量を確認し、生育・栄養診断を必ず実施してください。
- 幼穂形成期の草丈が62cm以上、葉色が42以上の場合、倒伏の危険性が高くなるので穂肥の施用を控えます。
- 緩効性肥料や育苗箱全量施肥の場合は、この栄養診断は当てはまらないので注意してください。

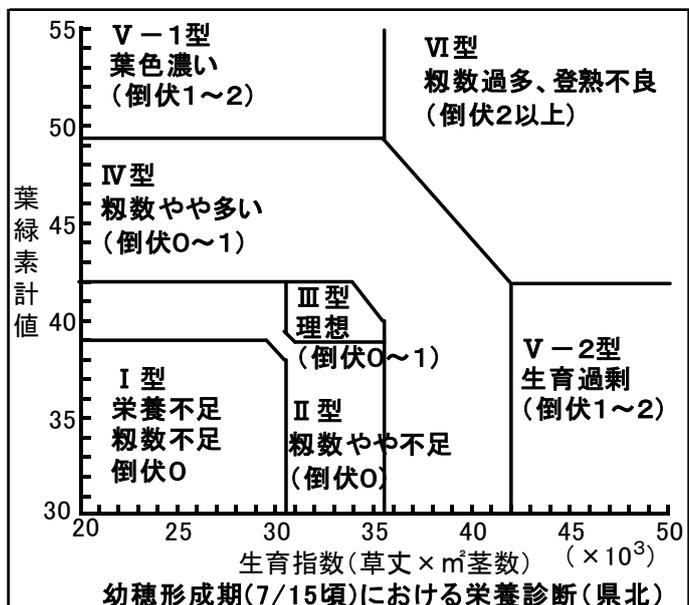
生育型	窒素追肥量(kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
I型	2kg	2kg
II型	2kg	2kg
III型	ムラ直し1kg	2kg
IV型	なし	2kg
V-1型	なし	ムラ直し1kg
V-2型	なし	ムラ直し1kg
VI型	なし	なし

(注)目標収量570kg/10a、あきたこまち

幼穂形成期（11葉期頃）の理想生育量（県北）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	葉色 (SPAD値)	生育量 (×10 <sup>3</sup> )
上限値	62	586	11	42	35.6
理想値	60	552	10.8	40	33.1
下限値	57	519	10.6	39	30.5

※生育量は草丈×m<sup>2</sup>当たり茎数。



### 4 主要病害虫の防除

#### 【いもち病】

- 病害虫防除所の発生予察情報によると、本年は平年よりも葉いもちの発生量がやや少ないと予想されています。BLASTAM法による感染好適判定では、**6/26に能代で感染好適条件**が観測されています。
- ほ場の見回りにより早期発見に努め、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス等）を散布してください。

#### 【斑点米カメムシ類】

- 病害虫防除所の発生予察情報によると、発生量はやや少ないと予想されています。
- 稲が出穂する15～10日前までに、畦畔や農道等を対象に地域で一斉に数回除草を行い、イネ科雑草の除去に努めてください。
- 水田内にホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの残草があると、アカスジカシカメの侵入を助長するので、水田内の雑草対策を徹底しましょう。

不明な点がある場合は、山本地域振興局農林部農業振興普及課（TEL52-1241）までご連絡ください。